San-iku 通信

社会福祉法人賛育会の広報誌「さんいくつうしん」　TAKE FREE

令和元年東日本台風
2019.10.13被災時の様子

2022年現在

REPORT

Vol.31
2022 WINTER

特集 賛育会豊野事業所
事業復興への歩み。そして感謝を未来へ。

今、賛育会では～コロナ禍でも様々な活動を継続しています！～

社会福祉法人
賛育会

特集 REPORT

賛育会豊野事業所（長野県・長野市）

事業復興への歩み。そして感謝を未来へ。

～千曲川堤防決壊から2年。被災前の姿を取り戻した豊野事業所レポート

■あれから2年…

令和元年東日本台風（台風19号）により千曲川の堤防が決壊し、2019年10月12日から13日にかけて、豊野事業所は被災しました。あれから2年が経過して、事業所はおかげさまで被災前の状態をほぼ取り戻しました。

しかし、川沿いに建つグループホームは、垂直避難が困難な平屋であることから、突然の増水の危険性を考慮して、同じ場所での事業再開を断念することになりました。また、被災した地域の医療ニーズの変化と事業の安定運営のために、診療時間の変更等を行いました。

■被害状況

各地で大きな被害をもたらした2019年10月の台風19号。社会福祉法人賛育会の運営する豊野事業所は千曲川の堤防決壊による氾濫により、10月13日未明に1階部分が2.3m浸水しました。前日までの垂直避難により、人的被害はありませんでしたが、介護医療院、老人保健施設、特別養護老人ホーム、軽費老人ホームの入居系4施設と通所系事業は全て事業を停止。入居されていた276名の方々はDMAT（災害派遣医療チーム）や自衛隊等の支援を受け、数日掛けて病院や施設などに避難していただきました。

被災から2年を過ぎた豊野事業所。振り返りとこれからの抱負について、賛育会クリニック　宮澤院長　老健ゆたかの　森事務長　豊野清風園　堀家施設長　に語ってもらいました。

宮澤：あっという間の2年。たくさんのことがありすぎたよ。

森：ほんと、あっという間ですね。あの日は「まさか！」の連続で、なんとか避難が間に合ったという記憶しかありません。日常があっという間に変わってしまって、その後の大混乱を一つずつ対処してきたら2年も経ったんですよね。まだ気持ちが整理できていない部分もあります。

堀家：東京でも荒川が氾濫する可能性があって、墨田区の施設は垂直避難をしたんですよ。長野でまさか浸水するほどになるとは思ってもいませんでした。

森：越水とか氾濫を想定した訓練はしていたけど、堤防決壊は想定外でした。静かにどんどん上がってくる水を見守ることしかできなくて、あの時の恐怖感は今も忘れられないです。

被災地域での活動

被災住宅での
片付けのお手伝い

とよのスマイル
幸腹食堂の実施

宮澤：あの水の中を最初のDMAT（災害派遣医療チーム）隊が到着した時は、暗闇の中に光が差した感じで本当にありがたかった。

森：外の状況がわからないし、搬送が始まる頃には施設前に数十台の救急車や自衛隊のジープが待機していてくれて、助かった!というあの時の感覚は言葉では表せない感覚ですよね。

宮澤：近隣のドクターやご利用者のご家族が館内の片づけに協力してくださって。ありがたかったね。

森：皆さんも被災したはずなのに…本当にありがたくて励まされました。施設前で炊き出しを始めたり、物資が行き届かない自主避難所の方々に温かいお食事を届けたのはお礼の気持ちを伝えたい職員の気持ちの表れだと思います。

堀家：被災した地域の片づけや社会福祉協議会のボランティア受入れの活動を始めた頃の職員は慣れないことばかりで、戸惑いや不安の意見が多かったけれど、継続するうちに地域住民や遠くから駆けつけてくれたボランティアの励ましもあって、緑のビブスに誇りをもって活動が続けられた気がします。お手伝いする側がたくさん応援していただいて申し訳ない気持ちでした。

宮澤：AMDA（特定非営利法人AMDA）や鎌田實先生、たくさんの大学関係者、YMCAや教会の方々にも本当にお世話になったね。

森：法人内では東京や静岡の事業所からは人だけでなく車両や物品の調達もしてもらいました。なによりも、豊野事業所の職員は本当にがんばってくれたと思います。「地域の復興なくして事業所の復興なし」が合言葉だったけれど、自分の働く場所がどうなるのかは常に不安だったと思います。そんな中でも水害を受けた熊本の被災者支援に参加してくれた職員がいたこともぜひ知っていただきたいです。

堀家：避難された利用者さんを受け入れてくださった地域の施設に応援介護員として延べ100名以上、交代で東京や静岡に研修出向してくれた職員36名、長野に残って地域支援活動に参加した職員250名、施設の中で事務や改修工事に専念した職員もいて、一人ひとりの献身があったからこその事業所復興ですよね。

宮澤：老健ゆたかのに佐藤先生（新生病院）、豊野清風園に伊藤先生（小布施の里クリニック）、介護医療院とよのに中澤先生が新たなドクターとして加わってくださったのも事業再開には不可欠だったよ。長野県医師会や上水内医師会にもたくさん応援をいただいたよね。

森：そうですよね。地域で暮らす先生方が熱心に利用者さんを支えようとしてくださる姿に職員は勇気をいただいたと思います。

堀家：長野市からも事業再開に向けた弾力的運用とか補助金のことで助けてもらいましたよね。提出書類の多さはきつかったけど・・・（笑）

森：被害総額15億円なんて、賛育会が補助金なしで工面できる額じゃないからありがたかったですよね。

堀家：あっという間に2年が過ぎてしまったけれど、この被災をきっかけに出会った方々と一緒になって何が必要とされていることなのかを考えていかないといけないですね。

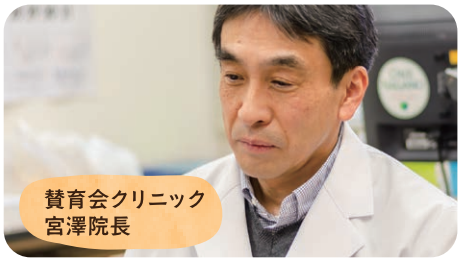
宮澤：訪問診療もがんばっていきたいな。

森：きっかけはつらすぎる体験でしたけど、職員が地域の方々との交流で得た体験をこれからの地域活動のために活かしてほしいですし、たくさんの提案がでてきそうな予感がします。2022年は色々なことでお返しを始めるスタートの年にしたいですね。

現在豊野事業所の被災から事業再開までを報告書として、まとめる作業を進めています。3月中の完成を目指しています。

豊野清風園
堀家施設長

老健ゆたかの
森事務長


賛育会クリニック
宮澤院長

今 賛育会では

コロナ禍でも様々な活動を継続しています！

東京清風園
敬老のお祝い

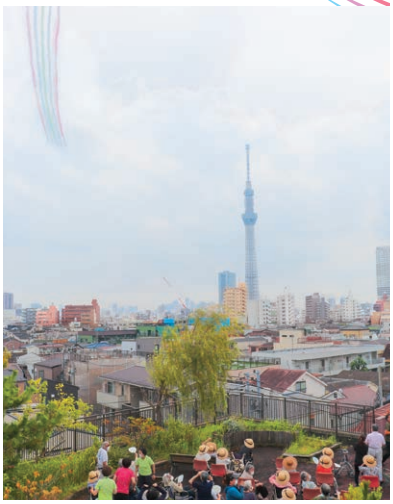
収穫感謝祭のプレゼント
3歳児制作

さんいく保育園有明
感謝祭

いつもありがとうございます！
感謝の気持ちを厨房スタッフへお伝えしました。

プレゼントを厨房職員に届けているところ

はなみずきホーム
ブルーインパルス見物



ブルーインパルスとスカイツリーを屋上で見物

INFORMATION

SEAP2021結果発表 SEAP2021（San-ikukai Excellent Activities and Projects）～調査研究・実践事例発表会～

新型コロナ感染症禍の厳しい状況の中、今年は集合形式からオンラインに変更して2年ぶりに開催しました。各施設で実践されている貴重な取り組みを共有し、賛育会全体の事業や活動のさらなる質の向上に向けた発表は15作品がエントリーされ、審査の結果、4作品が入賞となりました。

【最優秀賞】

☆石川　紫さん（賛育会病院）
『院内から院外へ相互理解の輪を広げて～「医療と介護の連携」に向けた取り組み～』

【優秀賞】

☆福岡 正淑さん、山下 剛一郎さん（はなみずきホーム）
『園芸活動を通じた多世代交流の推進～コロナ禍の地域活動のあり方～』

☆柳川 貴久美さん、坂田 結伊さん（老人保健施設ゆたかの）
『被災からコロナ禍を経て～事業所研究発表会再開に向けて～』

☆高島 法子さん（賛育会病院）
『200床以下の一般病院が皮膚・排泄ケア認定看護師を専従で勤務させることの効果と意義』

賛育会特別募金のお願い

賛育会の各施設では「いのちの授業」や「こども食堂」をはじめ、高齢者や子どもの居場所づくり、被災地支援など60を超える地域活動を行っています。これらの活動は多くの皆さまからのご寄付によって支えられています。災害や感染症の影響下での病院や施設の運営は、大きな困難に直面しています。活動や交流が制限される状況でも、人々とつながることを願い、あらゆる手段を用いて、賛育会は人と地域に寄り添い続けます。皆さまの温かいご支援をお願いいたします。

- 募金は現金、または郵便振替でお願いいたします。
- お申し出により、募金者のお名前や募金額を非公開にすることも可能です。

賛病アーカイブ
写真で感じる賛育会の歴史

＊1948年と2021年を合成しています。

合成作成：小泉美壽氏

歴史フォト
賛育会病院全景
1948年（昭和23年）

San-iku通信

社会福祉法人賛育会の広報誌「さんいくつうしん」
San-iku通信 Vol.31　2022年 冬号
編集：賛育会法人事務局
発行人：中村 基信
発行所：社会福祉法人 賛育会
印刷：（有）エースプリント　（20220128-7300）

社会福祉法人 賛育会
〒130-0012 東京都墨田区太平3-17-8
URL　https://www.san-ikukai.or.jp/
お問い合わせ
TEL：03-3622-7614

社会福祉法人
賛育会